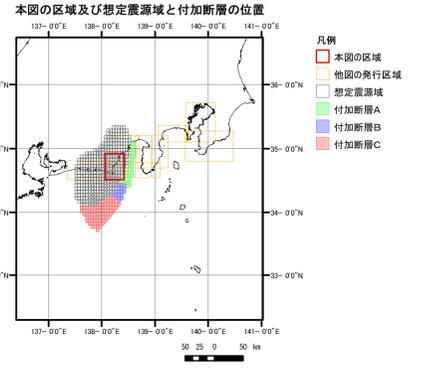
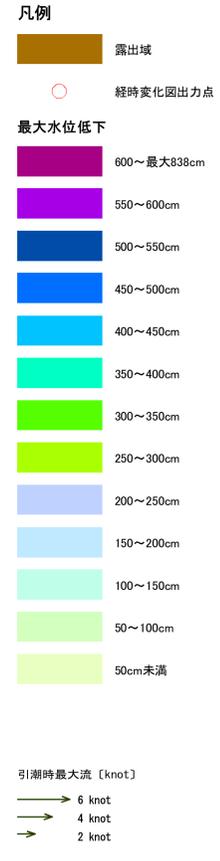
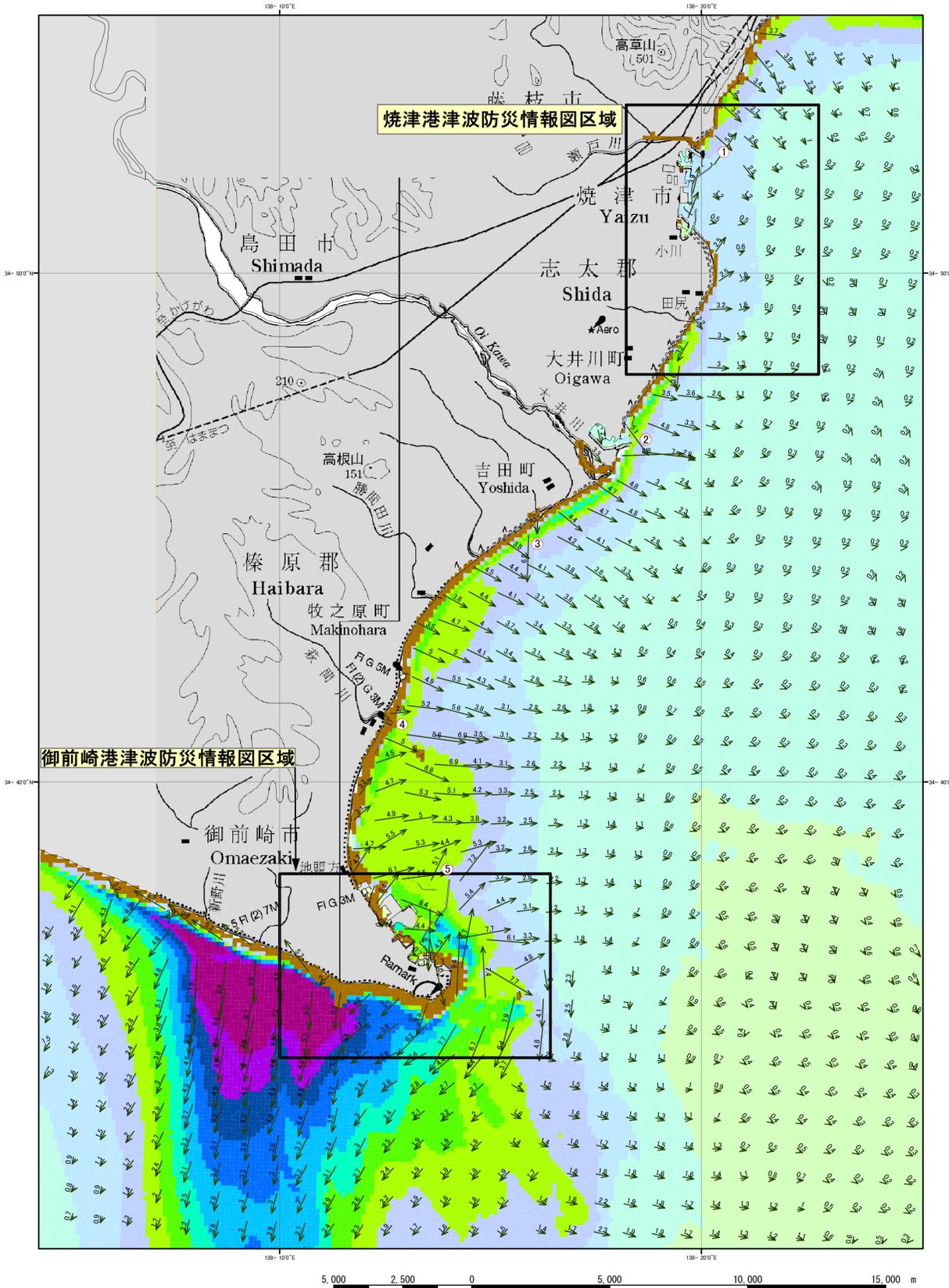




想定東海地震による駿河湾南西部津波防災情報図広域版（引潮）

計算条件：最低水面・150mメッシュ
 隆起量：平均138cm(42cm~196cm)

・この図は150mメッシュで計算した津波の概要版であり、港湾内や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。
 なお、「津波防災情報図」（50mメッシュで計算）が整備されている海域はそれを参照してください。
 ・この地域は震源域である。震源域では、地震発生直後に津波が発生する可能性があるため、津波の到達時間は記載していない。



本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会（平成13年12月11日）」で公表された断層モデルを使用した。

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

・この図は発生時から6時間のシミュレーションを行い作成しています。
 ・最大流の矢符は、6時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7*7個(1050m*1050m)の49個から最大のものを表示しています。
 ・表示されている流速矢符は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
 ・経時変化図(水位変動のグラフ)は最低水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されおらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
 ・経時変化図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの海面(平均水面)を現しています。
 ・陸部の情報は海図から採用しています。
 ・計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を製作する際の基礎データを使用しています。

・この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)

